

# 令和7年度 学校自己評価システムシート (滑川町立月の輪小学校)

目指す学校像	子供が生き生きと活動し、保護者や地域から信頼される学校		達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
重点目標	1 確かな学力の確立	○日々の授業の充実 ○学力と体力の向上		B	概ね達成 (6割以上)
	2 豊かな心と人権尊重の精神の育成	○人との関わりを豊かにし、思いやりの心を育む道徳教育の推進		C	変化の兆し (4割以上)
	3 学校・家庭・地域との連携	○家庭・地域に見える教育の推進		D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 1 月 2 7 日 現 在 )				
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価目標	評価項目の達成状況	議	次年度への課題と改善策	
1	<p>※教職員平均年齢36歳。ここ数年は若手の育成に加え、中堅教諭のリーダー育成が重要となっている。</p> <p>○全体では授業規律は概ね身に付いている。個人指導については課題が見られる。</p> <p>○学習内容の定着には大きな個人差が見られる。学年が上がれば上がるほど低・中学年時の実定着が大きく影響している。</p> <p>○休み時間等も含め、運動面での二極化が進む中、様々な身体を動かす運動経験の差が大きい。</p> <p>○男子児童に肥満傾向が多い。特に夏季休業明けに肥満が進む傾向があった。身体力テストでは、特に50m走で男女ともに課題が見られる。</p>	学力の向上  体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>各調査の分析結果を基に、本年度の重点項目を絞り込み、各層の学力向上を図る。</li> <li>学年間チームティーチング(TT)実施。</li> <li>問題解決的な授業や話し合い活動を計画的に取り入れ、教師主体の一方向的に授業にならぬよう改善を図る。</li> <li>家庭学習の充実を図り、学習の仕方や宿題の取組方等を伝え、協力を得る。</li> <li>ICT教材は手段として適切な場面や効果的な活用を行うことを念頭に授業を組み立て、学習効果を高める。</li> <li>外遊びの推奨と同時に、学級全体での活動を効果的に取り入れる。</li> <li>学年での重点運動項目を定め、体育の授業で継続的に行う。</li> <li>長期休業前に講話や保健だよりで注意を喚起する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的基本的な事項の定着度を見る評価テストで算数の平均90点以上を85%以上にする。</li> <li>重点運動項目については定期的に記録を取って、指導や取り組みの効果を確認する。</li> <li>2学期の発育測定で前年度と比較し、効果を検証する。</li> </ul>	<p>▲各教科での評価テストについては、概ね80～85%だが、時間の経過とともに定着率が落ちる傾向が見られる。</p> <p>○全学年で算数の時間にTTを実施したことで、個人差への対応ができて定着へつなげられた。</p> <p>▲家庭学習の取組の差が基礎基本の定着に大きく影響している。</p> <p>○新体力テストでの全校の総合評価は、種目別の平均値は全学年数値がやや上がっている。</p> <p>○体育の授業と連動して休み時間に学習している運動の練習をする児童が増えている。</p> <p>▲肥満度20%以上の割合は、4月 男子31人 女子34人→9月 男子39人 女子31人 男子の軽度肥満が増加した。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着は学年が進むごとに個人差が大きくなっている。個に応じたサポートの方法や既習内容の再定着時間確保が課題となっている。</li> <li>家庭学習での繰り返しが学習の定着に大きく影響するため、家庭での協力と見取りを充実させる。</li> <li>教職員の積極的な声かけやアドバイス、変化を促す休み時間への参加を行う。</li> <li>長期休業前の児童と家庭への働きかけを今後も継続して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題の自主学習だが、低学年にとってはなかなか難しい。市販のプリント教材等を可とする先生と、不可とする先生がいる。学力の個人差は家庭での取り組みませ方に影響していると思うので大切にしたい。</li> <li>昔は残して学習させていたが、今の時代は難しい。学習量を確保させたい。家庭学習の取り組みを向上させることは各家庭の状況が違うので難しい面もあるだろう。</li> <li>方策については分からないが、学習のつまづきをつくらない取り組みが大切だと思う。</li> <li>先生方が学力低下に対し児童のフォローをしてくれているが分かったが、家庭でも危機感をもってフォローしていくことが大事だと思う。</li> <li>体力の向上や軽度肥満の解消として、休み時間に職員が積極的に外へ出ると一緒に遊ぶ児童が増えるのではないかな。</li> </ul>
2	<p>○登校班や縦割り活動では、高学年が低学年の面倒をよく見ている。</p> <p>○学校外での挨拶ができない児童が多い。また、使う言葉の選び方が気になる児童もいる。</p> <p>○様々な理由から登校を渋るケースが数件ある。</p>	思いやりを行動に移せる児童の育成  規律ある態度の育成 (場に応じたあいさつ・返事)	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り活動の充実を図り、6年生と1年生や下級生の関わりを軸にリーダーとしての自覚や責任感を育成する。</li> <li>「道徳」の授業改善を図り、自分のこととして考えられる授業を行い、道徳的実践力を高める。</li> <li>あいさつ運動と連携した児童会の活動を取り入れる。</li> <li>家庭との連携を図り、学校、家庭、専門機関との連携においてそれぞれの役割を確認し、足並みを揃えて児童の健やかな成長を育成していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活アンケートで豊かな心や規律ある態度に関する項目において、達成率を85%以上にする。</li> <li>児童の登校しぶり、不登校等の問題に組織的対応をして、未然防止や立ち直りを進める。</li> </ul>	<p>▲児童は学習規律に関しては85%を超えたと答えているが挨拶に関しては児童、保護者、学校ともに課題を感じている。</p> <p>○6年生が自主的に1年生との交流を企画し成長が感じられた。</p> <p>○児童会の働きかけもあり校内での挨拶はよくできている。</p> <p>○学校と専門機関との連携が効果的に働き、しぶりの解消や学校に来られるようになったケースが多数あった。家庭での役割分担や協力が得られると解消につながっていく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内や校外学習先では、よく挨拶できている。学校、家庭それぞれの役割を確認し家庭での働きかけと協力を工夫する。</li> <li>家庭の役割や児童との関わりについて、専門機関と連携し、家庭での対応や方針等を学校と共有し対応していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶できる子とできない子がはっきりしている。登下校等で地域の大人が見本を見ることが大切である。</li> <li>B評価の判断基準がよく分からない。挨拶をとってみても、挨拶には元気な挨拶以外にも仕方があるから、個人差等許容範囲では、登校しぶりの対応についても、改善の結果だけでなく、学校としてどのように取り組めたのかを評価してみてもどうだろうか。A評価でもよいのではないかな。</li> <li>挨拶を励行するためには、児童への働きかけだけでなく、家庭や地域を巻き込んだ仕掛け等、視点を変えてみてはどうか。</li> </ul>
3	<p>○今年度、学校運営協議会での意見を生かし、滑川町の特色や滑川町に関連した教育活動を取り入れる。</p> <p>○学校だより等で様子を伝えている。児童や保護者のコメント等を掲載する学年もある。</p> <p>○地域間のつながりの希薄さを感じるケースがある。学校をもとに地域間のつながり作りを進めたい。</p>	開かれた学校づくり (家庭・地域に見える取組)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や学校の教育活動を積極的に見えていただく機会を増やすと同時に、保護者のみならず地域や町の関係者に参加していただく取組を行う。</li> <li>学校行事を公開し児童の活動の様子を参観していただく。</li> <li>保護者や地域の意見を傾聴し、迅速な対応、保護者や児童に寄り添った指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価に関わるアンケートで積極的に「情報公開している」の項目の90%にする。</li> <li>学校公開や授業参観等の機会を活用し、保護者間で意見交換やコミュニケーションを取る機会を作る。</li> </ul>	<p>○「情報公開」の項目は全学年で90%を超えている。</p> <p>○「食育」をテーマに豆腐づくりや作物の栽培など教科と関連付けた取組を行った。給食試食会等保護者との連携を今後も継続していきたい。</p> <p>▲地域と各家庭を結ぶ教育活動を模索している。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、保護者・地域への公開機会を検討するとともに幼稚園や保育園高等学校や中学校との交流機会を増やしていく。</li> <li>総合的な学習の時間での年間指導計画の中に取り入れることを検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>滑川総合高等学校とは「スマイルデー」等でよい交流の機会をもらっている。今後は福祉や陸上競技の分野でも交流する機会が設定できそうなので、連携しながら進めたい。</li> <li>高校での公開講座では周知等で小学校にもお世になった。地域の方々も高校と関わるよい機会となった。</li> </ul>

○印：成果と思われること      ▲印：課題と思われること